

2021年度第4回中京競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 一宮特別

一宮（いちのみや）は、愛知県北西部の市。濃尾平野の中央に位置し、清流と温和な気候に恵まれ、真清田神社の門前町として尾張北西部の経済の中心として繁栄した。7月に行われる一宮七夕まつりは、仙台・平塚の七夕まつりと並び、日本三大七夕まつりのひとつとも称される。

○ 松風月ステークス

松風月（まつかぜつき）は、陰暦6月の異称。風を待つ（松）月の意。

○ 農林水産省賞典鳴尾記念（GⅢ）

本競走は、昭和26年に創設された重賞競走。創設当初は春・秋の年2回実施されていたが、29年から現行の年1回となった。平成24年より夏季競馬の中距離競走の充実を図るため、実施時期を12月から6月に移し、距離も2000mに変更されている。

競走名は、明治40年に関西競馬倶楽部が兵庫県武庫郡鳴尾村に建設した「鳴尾競馬場」に由来する。昭和18年、太平洋戦争の激化に伴い海軍に徴用されたことで、同競馬場は幕を下ろしたが、現在も武庫川女子大学の浜甲子園キャンパス内にスタンドの一部が残っている。

<第2日>

○ 蒲郡特別

蒲郡（がまごおり）は、愛知県三河湾内の市。沿岸一帯は、三河湾国定公園に包含され、海から山にかけて変化に富んだ景勝を有する観光地である。産業では古くから繊維工業が栄えているほか、温暖な気候を活かしたミカンやイチゴなどの果物の栽培も盛ん。

○ 弥富特別

弥富（やとみ）は、愛知県西部の市。名古屋市の西側20km圏内に位置し、駅を中心として名古屋市のベッドタウンとして開発が進み発展した。日本有数の金魚の生産を誇り、弥富市周辺で生産される弥富金魚が有名。

○ 高山ステークス

高山（たかやま）は、岐阜県北部の市。飛騨地方のほぼ中央、高山盆地の中にある。優れた風景と碁盤目形の街路などから、「飛騨の小京都」と呼ばれており、陣屋前や宮川沿いで行われている朝市には多くの観光客が訪れる。なお、日本一の面積を誇る市としても知られている。

<第3日>

○ 春日井特別

春日井（かすがい）は、愛知県北西部の市。高蔵寺ニュータウンをはじめ大規模な団地開発により、名古屋圏を代表する住宅都市として発展した。サボテンを種から育てる実生栽培の生産が盛んである。

○ 清洲ステークス

清洲（きよす）は、愛知県西部、清須市の町。戦国大名・織田氏勃興の地であり、清洲城は織田信長が居城としたことで知られている。現在は、名古屋市のベッドタウンとなっている。

○ 桑名ステークス

桑名（くわな）は、三重県北東部の市。江戸時代には東海道 42 番目の宿場町として栄えた。熱田、宮宿から伊勢湾の海上七里を海路で渡る「七里の渡し」の舟着き場があり、東海道の要衝であった。長島温泉や国の重要文化財である六華苑などが有名。

<第4日>

○ 恵那特別

恵那（えな）は、岐阜県南東部の市。中心の大井はかつて中山道の宿駅であった。周辺には木曾川をせき止め、大井ダムの開発を行った際に形成された溪谷である恵那峡があり、四季折々の自然が楽しめる。

○ 常滑特別

常滑（とこなめ）は、愛知県知多半島西海岸中央部の市。平安時代末期頃から続く常滑焼の産地として、越前・瀬戸・信楽・丹波・備前と並び、日本六古窯のひとつとされる。また、中部国際空港の所在地としても知られている。

○ 三宮ステーキス

三宮（さんのみや）は、神戸市中央区の地名。神戸市随一の繁華街として有名。名は、三宮神社（生田神社の三の宮）に由来する。開国以降、外国人が多く居住していたことで知られ、現在でも北部の北野異人館街には異国情緒溢れる町並みが広がっている。